



## ◇指導のねらい

- ・ 友だち（相手）とかかわりを楽しんだり、協力をしたりしながら活動に取り組む気持ちを養う
- ・ 目と手の協応動作や物を注視、追視する力を高める

## ◇基本の使い方

子ども同士または対教師で向かい合ってボードを持ち、傾けたり揺らしたりすることで、決められた時間内にいくつ穴からボールを落とすことができるかどうかを競って遊ぶ。

## ◇指導の評価

- ① 直接的に人とかわることが苦手で友だちと一緒に活動することが難しい自閉的傾向の児童でも、ボードを共有して遊ぶ中で、自然に相手の動きやボールの動きにあわせて取り組むことができた。
- ② 結果が分かりやすい活動なので、当事者だけでなく客観的に見ている児童も一緒に楽しむことができる
- ③ ボールを数えて勝敗を考えたり、スタートの合図を出したり、遊びの中で役割分担をしたり、国語・算数の力を生かすことができた。